

平成26年度  
事業計画書

事業年度 自 平成26年4月 1日  
(第5期) 至 平成27年3月31日

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会  
東京都中央区銀座一丁目19番16号

(A001891)

## 平成26年度事業計画書目次

### ■協会の概要

I. ゴルフ業界の現状	1
II. 当法人の現況に関する事項	1
III. 役員等に関する事項	7
IV. 会計監査人に関する事項	8
V. 「業務の適正を確保するための体制等の整備についての決議」の概要	8

### ■公益目的事業1. ゴルフ競技会開催事業

I. 概況	11
II. 開催競技と競技参加者数計画	11
III. 平成26年度競技の改善点	12
IV. 競技開催要項	14

### ■公益目的事業2. ゴルフ普及振興事業

I. 調査・研究事業	24
II. セミナー・研修事業	24
III. 交流・協力事業	25
IV. 機関紙発行事業	26
V. その他のゴルフ普及振興事業	26

### ■その他の事業1. 収益事業 ハンディキャップ普及振興事業

I. ハンディキャップ普及振興事業	27
II. JGA/USGAコースレート査定事業	28

### ■その他の事業2. 助成金事業

## 事業計画書の附属明細書目次

■役員その他の法人等の業務執行理事との重要な兼職の状況	30
■その他の記載事項	30

## ■協会の概要

### I. ゴルフ業界の現状

ゴルフ業界の現状をゴルフ場利用者数の推移で見ると、平成17年度に増加に転じその後5年間の増加人数は延べ6,335千人(+7.4%)と順調に増加、漸く最悪期を脱したかに思われた。然しながら、平成22年度にはピークアウト、また平成23年度は東日本大震災の影響から再び減少に転じたが、平成24年度は何とか持ち直し86,745千人、前年度比2,417千人増加(+2.9%)となった。

足許の推移は以上の通りだが、ゴルフ業界の長期的展望は少子高齢化の加速や人口減少から、市場規模は縮小化の方向にある。一方、2015年問題、所謂人口構造の変化からくるゴルフマーケットへの影響は、ゴルフ場・ゴルフ練習場の入場者数が2010年(平成22年)にピークアウトし、以後連続減少期に突入するとの予測であるが、平成24年度はやや持ち直したものの今後の推移が気になる処である。

「平成23年社会生活基本調査」(総務省)では、平成23年のゴルフ行動者数(ゴルフ練習場入場者を含む)は924万人で、5年前の1,014万人に比較して90万人減少(▲8.9%)。「遂にゴルフ人口が1,000万人を切る。止まらないゴルフ人口減少」と発表した。人口減少・少子高齢化、加えて同時進行の2015年問題があり、斯業界の先行きは引き続き厳しいとの見方が一般的である。一方2016年オリンピックよりゴルフ復活との明るい話題もあるが、ゴルフ業界にとってはゴルファーの底辺拡大、プレー回数の増加施策等需要創出が喫緊の課題であり、ゴルフ業界諸団体は、連携を強化し市場活性化に向けた取組みを、一層強化すべきであると思われる。当協会はゴルフ競技会を通じて、アマチュアゴルファーの育成を基軸にゴルフ市場活性化に向けた様々な事業活動を、今後共推進したいと考えている。

#### 【ゴルフ場利用者数の推移】

年度	利用者数 (千人)	増減 (千人)	同比率 (%)	ゴルフ場数 (場)	1ゴルフ場当たり 利用者数 (人)
平成16年度	85,307	▲3,069	▲3.5	2,453	34,777
平成17年度	86,046	739	0.9	2,446	35,178
平成18年度	88,235	2,189	2.5	2,442	36,132
平成19年度	89,020	785	0.9	2,442	36,454
平成20年度	90,786	1,766	2.0	2,442	37,177
平成21年度	91,642	856	0.9	2,445	37,481
平成22年度	88,061	▲3,581	▲3.9	2,432	36,209
平成23年度	84,327	▲3,734	▲4.2	2,413	34,947
平成24年度	86,745	2,417	2.9	2,405	36,069

(注)出所:一般社団法人日本ゴルフ場事業協会調

### II. 当法人の現況に関する事項

#### 1. 平成26年度事業の計画

単位:千円

事業別	平成26年度予算額	平成25年度予算額	増減
事業費	206,999	208,104	▲1,105
公益目的事業	(160,224)	(161,506)	(▲1,282)
その他の事業	(29,750)	(32,208)	(▲2,458)
法人会計	(17,025)	(14,390)	(2,635)
経常増減額	12,184	319	11,865
公益目的事業	(▲1,404)	(▲15,621)	(14,217)

その他の事業	( 15,588)	( 14,105)	( 1,483)
法人会計	(▲2,000)	( 1,835)	(▲ 3,835)

(注)1.その他の事業(定款第5条):ハンディキャップ普及振興事業並びに助成金支出事業

## 2.資金調達の状況

(1)資金調達の計画 :なし

(2)設備投資の計画 :なし

## 3.直前3事業年度の財産及び損益の状況

単位:千円

区分	平成22年度 実績	平成23年度 実績	平成24年度 実績	平成25年度 予算
経常増減額の部	▲ 4,630	5,638	▲ 3,526	319
評価損益等調整前 当期経常増減額	▲ 4,630	5,638	▲ 3,526	319
経常外増減の部	▲ 7,384	▲2,506	▲ 7,433	0
当期正味財産増減額	▲12,014	3,132	▲10,958	319
正味財産期末残高	35,809	38,941	27,983	28,302

(注)経常外増減の部 平成22年度:公益社団法人移行費用、協会創立50周年史製作費  
平成23年度・平成24年度:協会創立50周年史製作費

## 4.主要な事業内容

事業	主要な内容
公益目的事業(定款第4条) 【公益目的事業 1】 ゴルフ競技会開催事業	国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の実現への寄与を目的とし、アマチュアゴルファーによるゴルフ競技会を開催して、生涯スポーツのゴルフの普及振興を図る事業 (事業の内容) ・ゴルフの普及振興、ゴルフ競技会の開催、並びに技術向上の機会提供事業
公益目的事業(定款第4条) 【公益目的事業 2】 ゴルフ普及振興事業	国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の実現への寄与を目的とし、ゴルフに関するセミナー・研修、交流・協力、調査・研究事業を行い、生涯スポーツであるゴルフの普及振興を図る事業 (事業の内容) ・ゴルフに関する調査・研究、及びセミナー・研修会の開催事業 ・ゴルフ界諸団体との交流・連携を通じてのゴルフ普及振興事業 ・ゴルフの普及振興のため機関紙、及び学術図書の発行事業
その他の事業(定款第5条) 【収益事業】 ハンディキャップ普及振興事業	アマチュアゴルファーがゴルフを楽しむための前提となる、公平な統一ハンディキャップの普及振興、及びその前提となるコースレート査定事業 (事業の内容) ・公平な統一ハンディキャップの普及振興事業 ・コースレート査定事業
その他の事業(定款第5条)	ジュニアゴルファーの育成を目的に活動する、ゴルフ界2団体

【助成金事業】	に対する助成金事業 (事業の内容) ・ゴルフ界2団体に対する助成金支出事業
---------	---

## 5.事業体系

【公益目的事業 1】 ゴルフ競技会開催事業	I.スクラッチ競技
	1. 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	2. 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	3. 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	4. 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	5. 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	6. 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技
	II.アンダーハンディ競技
	1.アンダーハンディ競技(予選) (1)PGSスポンサー杯 (2)PGSハンディ杯
	2.アンダーハンディ競技(決勝) (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー
	3. PGSドリーム・エイジゴルフ大会
	4. PGS西日本月例杯
	5. PGS中部日本地区月例杯(みんなであきうき旅ゴルフ)
	6. PGS東日本クラブ対抗戦
7. PGS中部日本クラブ対抗戦(中部日本地区ゴルフ場対抗戦)	
【公益目的事業 2】 ゴルフ普及振興事業	1. 調査・研究事業
	2. セミナー・研修事業
	3. 交流・協力事業
	4. 機関紙発行事業
	5. その他のゴルフ普及振興事業
【その他の事業 1】 収益事業 ハンディキャップ普及振興事業	1. 公平な統一ハンディキャップの普及振興事業
	2. コースレート査定事業
【その他の事業 2】 助成金事業	1. 業界2団体に対する助成金事業

## 6.主たる事務所の状況

名称	所在地
公益社団法人日本パブリックゴルフ協会事務局	東京都中央区銀座1-19-16 銀座昭和ビル2階 B 室

## 7.主要な借入先及び借入額

借入先	借入額	償還期限等
なし		

## 8.重要な契約に関する事項

(1)会社役員賠償責任保険並びに賠償責任保険契約の締結

契約年月日	保険の名称	支払限度額
平成26年4月1日	会社役員賠償責任保険	3億円
保険料	保険会社	保険期間
290,000円	三井住友海上火災保険株式会社	平成27年4月1日
契約年月日	保険の名称	支払限度額
平成26年4月1日	賠償責任保険	3億円
保険料	保険会社	保険期間
158,180円	三井住友海上火災保険株式会社	平成27年4月1日

(注)上記保険は保険期間1年で1年毎に契約更改

## 9.会員に関する事項

### (1)会員数

単位:団体

種類	平成25年度末	平成26年度計画	増減
正会員	81	85	4
賛助会員	7	9	2
合計	88	94	6

### (2)地区別正会員数(平成26年3月31日現在)

単位:団体

東日本地区	中部日本地区	西日本地区	北海道・青森地区	合計
32	11	34	4	81

### (3)会員数の推移

単位:団体

年度	正会員			賛助会員		
	入会	退会	会員数	入会	退会	会員数
平成22年度	2	3	89	0	0	6
平成23年度	0	6	83	0	0	6
平成24年度	1	3	81	2	0	8
平成25年度	3	3	81	0	1	7

## 10.職員に関する事項

平成26年3月31日現在

職名等	氏名	就任年月日	担当事務
事務局次長	中村 知則	平成21年4月 1日	競技担当
一般事務	村松 洋子	平成17年3月14日	競技担当
一般事務	小路美智代	平成20年5月 1日	総務・経理・人事担当
一般事務	小山内美枝	平成21年2月24日	総務・経理・人事担当

## 11.役員会等に関する事項

### (1)通常社員総会

通常社員総会	開催予定日	開催場所
	平成26年6月25日	ホテルレオパレス名古屋
(議案)		
決議事項	第1号議案 役員改選(案)承認の件	
	第2号議案 退任常勤理事に対し退職慰労金支給の件	
	第3号議案 役員報酬規程改正の件	

	第4号議案 平成25年度事業報告書(案)承認の件
	第5号議案 平成25年度財務諸表及び附属明細書並びに財産目録(案)承認の件
報告事項	第1号議案 平成26年度事業計画書の件
	第2号議案 平成26年度正味財産増減予算書の件

(2) 理事会

	開催予定日	開催場所
第1回	平成26年 6月 2日	書面理事会
第2回	平成26年 6月25日	ホテルレオパレス名古屋(愛知県)
第3回	平成26年11月20日	未定(東日本地区)
第4回	平成27年 3月12日	未定(西日本地区)

(3) 常務理事会

	開催予定日	開催場所
第1回	平成26年 6月25日	ホテルレオパレス名古屋(愛知県)
第2回	平成26年11月20日	未定(東日本地区)
第3回	平成27年 3月12日	未定(西日本地区)

(4) 全国運営委員会

	開催年月日	開催場所
第1回	平成26年 8月22日	未定(西日本地区)
第2回	平成27年 2月17日	ホテルレオパレス名古屋(愛知県)

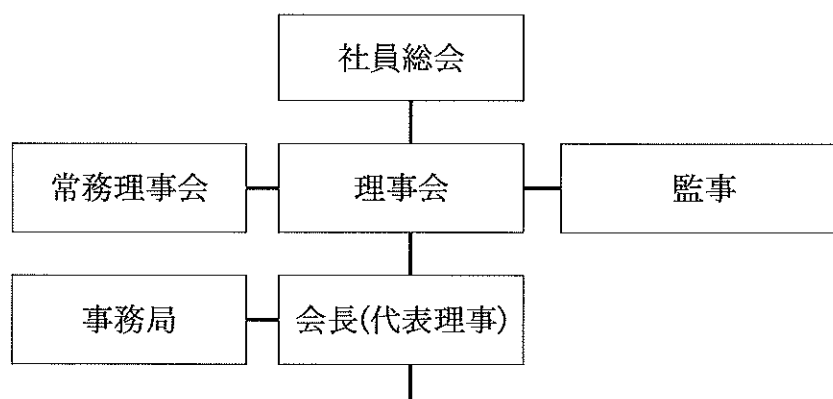
(5) 財務委員会

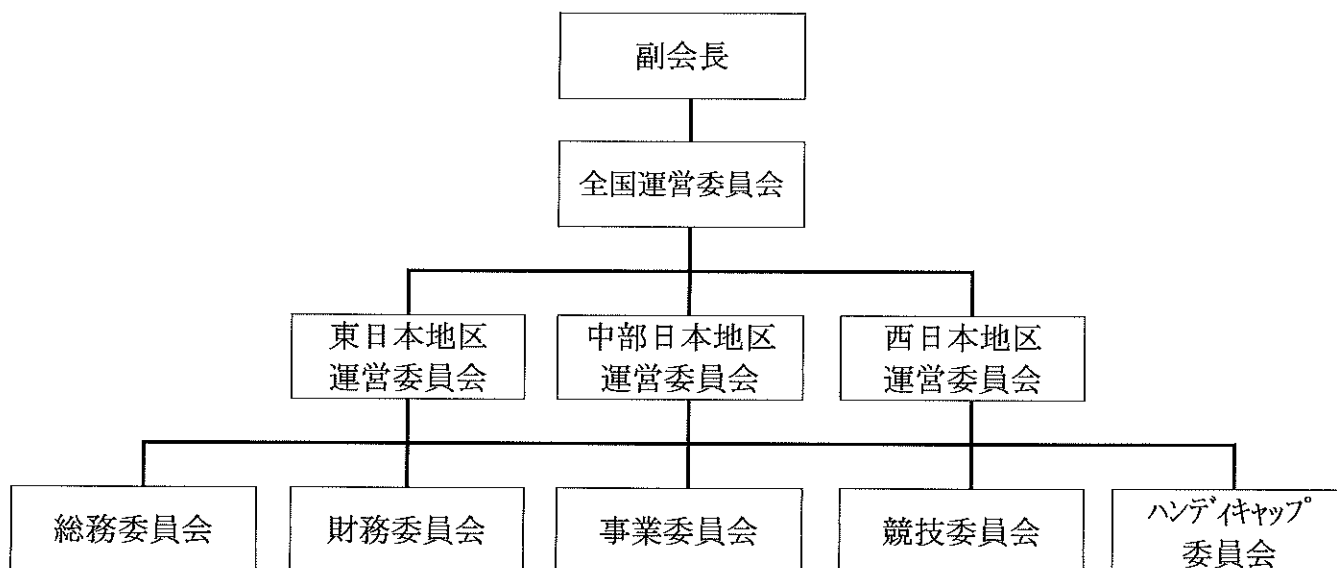
	開催年月日	開催場所
第1回	平成27年 2月20日	協会事務局

(6) スポンサー会議

	開催年月日	開催場所
第1回	平成26年11月未定	未定(東京都)

12. 組織図





### 13. 許可、認可、承認等に関する事項

申請年月日	申請事項	許可等年月日	備考
なし			

### 14. 株式の保有状況

取得計画なし

### 15. 対処すべき課題

#### (1) 競技参加者数の拡大

競技参加者数は平成19年度をピークとして、以降は減少傾向にある。平成25年度はスクラッチ競技15,154名（前年度対比862名減少、▲3.3%）、アンダーハンディ競技19,012名、（前年度対比430増加、+2.3%）、合計34,166名（前年度対比57増加、+0.2%）で、残念ながら主力である3選手権競技の競技参加者数は、ここ数年の減少傾向に歯止めをかけることができなかった。

継続的な競技参加者数の減少は、収支状況並びに財務構造の悪化を招来し、協会事業の安定的運営上懸念が生じるので、競技参加者数の拡大は喫緊の課題である。

公益社団法人への移行（平成22年度）を機に、平成23年度通常社員総会に於いて「今後の事業活動の基本方針」を決議し、メイン競技であるパブリック選手権を往年の1万人台の参加者数に復活、更に2万人、3万人と規模の拡大を期すとしている。なお、国内活動のみに留まることなく、海外にも目を向けた事業展開を図る方針の下、平成26年度よりパブリック選手権グアム予選の開催（レオパレスリゾートカントリークラブ）を検討中である。

#### (2) JGA/USGA ハンディキャップインデックス取得者の拡大

ゴルフは年齢・性別・技量の異なる者同士でも対等に楽しめるスポーツであるが、それは公平な統一ハンディキャップが前提となる。従って、ゴルファーは自分のゴルフ技量を公式な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任がある。当協会のJGA/USGAハンディキャップインデックス取得者は約2万名で、高額なゴルフ会員権の取得を必要とせず、誰でも低廉な登録料で手軽に取得できる点から、多くのアマチュアゴルファーの支持を得ている。

当協会の収支構造は、公益目的事業は収支トントンが目途であり、収益事業であるハンディキャップ普及振興事業の安定的運営により、協会事業活動の円滑・安定性が担保されるので、ハンディキャップ取得者の拡大も、競技参加者数の拡大と同様に喫緊の課題である。



### (3) 正会員・賛助会員の拡大

正会員100団体の実現は長年の課題であるが、直近の推移は平成21年度の90団体をピークとして、平成25年度末には81団体まで減少した。

係る状況から平成24年度第4回理事会(平成25年3月14日開催)において、正会員勧誘方針に関して決義し会員勧誘活動に取り組んできたが、平成26年度も引続き正会員の勧誘活動を一層積極的に推進する。

## III. 役員等に関する事項

### 1. 理事

平成26年3月31日現在

役職名	氏名	区分	任期	常勤・非常勤	報酬等
会長(代表理事)	三野 哲治	代表理事	平成26年6月	非常勤	無償
副会長 競技委員会委員長	石井 信成	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
副会長 事業委員会委員長	三治 明	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
副会長 ハンディキャップ委員会委員長	西村 潔	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
専務理事	島田 忠次	専務理事	平成26年6月	常勤	有償
総務委員会委員長	三浦 光男	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
財務委員会委員長	笠原 泰夫	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
事業委員会副委員長	林 一郎	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
事業委員会副委員長	加藤 義孝	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
事業委員会副委員長	六車洋二郎	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
競技委員会副委員長	神戸 誠	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
競技委員会副委員長	久保田英示	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
競技委員会副委員長	森 章次	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
ハンディキャップ委員会副委員長	西 治彦	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
ハンディキャップ委員会副委員長	小野 和彦	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
	伊藤 哲夫	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	木村 妙子	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	久保田誠一	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	小林 寛道	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	小林 弘実	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	中元紘一郎	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	平山 伸子	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	雪野 智世	理事	平成26年6月	非常勤	無償

以上23名

(注)理事の他の法人等の代表状況等、並びに兼職状況は「事業報告の附属明細書」に記載した。

### 2. 監事

平成26年3月31日現在

	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬等
監事	豊原 正嗣	平成26年6月	非常勤	無償

監事	菅野 孝男	平成26年6月	非常勤	無償
監事	大田 英二	平成26年6月	非常勤	無償

以上3名

(注)監事の他の法人等の代表状況等、並びに兼職状況は「事業報告の附属明細書」に記載した。

### 3.顧問

平成26年3月31日現在

	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬等
顧問	石井 幸成	平成26年6月	非常勤	無償
顧問	浅井 光昭	平成26年6月	非常勤	無償
顧問	丸山 信久	平成26年6月	非常勤	無償

以上3名

### 4.役員等の報酬等

区分	人数	報酬等の総額	備考
専務理事	1名	非公開(個人情報)	常勤

(注)理事の報酬限度額は、「役員等報酬規程」において年額900万円以内と規定されている。

## IV.会計監査人に関する事項

当協会は会計監査人の設置義務なし

## V.「業務の適正を確保するための体制等の整備についての決議」の概要

- 平成25年度第1回理事会(平成25年6月10日開催)にて承認した。
- 企業統治体制「業務の適正を確保するための体制等の整備について」の理事会決議の内容【企業統治体制の採用理由】

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律(以下、一般法という)(第90条第4項5)は、「業務の適正を確保するための体制」、いわゆる企業統治体制(内部統制システム)の構築を定めている。当協会は、ゴルフの普及振興という事業活動目的の下、社会からの信頼を得ることの重要性を認識し、適法・適正かつ効率的な事業活動を遂行するため、一般法および法務省令(法人法施行規則第14条)に基づき、「業務の適正を確保するための体制」を以下の通り定める。

### 【業務の適正を確保するための体制の概要】

当協会の理事会は、理事23名(平成25年6月10日現在)で構成している。業務執行に関しては、会長(代表理事)を含む、各事業部門を統括する常務理事(各委員会委員長5名、及び各委員会副委員長8名)があたっており、常務理事及び理事並びに理事会の機能及び責任を明確にするとともに、急激な事業活動環境の変化に迅速に対応するため、当該企業統治の体制を採用する。

当協会の理事会は原則として年3回開催し、必要に応じて臨時理事会を開催しつつ、重要事項の決定、業務執行状況の監督を行っている。さらに、一般社員(会員)と利益相反が生じる怖れのない外部理事8名(平成25年6月10日現在)、並びに外部監事1名(平成25年6月10日現在)を確保し、事業活動の妥当性の監督強化を行っている。

監事については、いずれも会計業務に精通した監事3名で構成され、その内の1名は外部監事であり、各監事及び内部監査機能を有機的に融合させ、企業統治の適正性の確保を図っている。なお、会計業務は外部の会計事務所に委託し、適正性を維持している。

以上により、現状の体制によって事業運営の透明性の確保、理事の第三者説明責任の遂

行といった、企業統治の基本原則を順守できるものとする。

## 【「業務の適正を確保するための体制等の整備」の内容】

### I. 理事の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

1. 理事会を原則として年3回開催することに加え必要があるときは随時開催し、重要な業務執行に関する意思決定を行うとともに、理事の職務執行を監督する。
2. 法令等の遵守と企業倫理の徹底は事業活動の原点であるとの認識のもと、行動規範およびコンプライアンス規程を制定する。その内容について会長(代表理事)、並びに各理事が職員への周知を図り、法令遵守をあらゆる事業活動の前提とすることを徹底する。
3. 財務報告の適正性を確保するため、会長(代表理事)および理事は職員に対し、適正な財務諸表の作成が極めて重要性を有するものであることを、あらゆる機会に認識させるよう努めるものとする。

また、財務諸表作成のプロセスにおいて、虚偽記載並びに誤謬等が生じないように各職員が相互に牽制するシステムを構築するものとする。

4. 監事は、内部統制の整備状況を監査し、会長(代表理事)と定期的に情報および意見の交換を行う。

### II. 理事の職務の執行に係る情報の保管および管理に対する体制

文書管理規程を定め、理事の職務の執行に係る理事会の議事録、決裁書類並びに契約書類は、文書または電磁的記録(以下、「文書等」という)により、それぞれ法令または規程に定める期間保存・管理する。

### III. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

1. 当協会を取り巻く様々な潜在的リスクについては、それらのリスクを分析しその特性に応じた対応策を講じるとともに、定期的にその有効性について評価し必要に応じて見直しを行う。
2. 各理事は、自らの職務分掌範囲のリスク管理について責任を持つとともに、協会全体に及ぶリスクに対しては、必要に応じて専門委員会を設置し総合的な対応を図る。

### IV. 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

定例の理事会を年3回開催するほか、必要に応じて臨時理事会を開催し、重要事項の決定および職務執行に関する基本事項の意思決定を機動的に行う。

また、理事および職員が業務分掌・職務権限規程に基づき、職務の執行が適正かつ効率的に行われる体制をとるものとする。

### V. 職員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

1. 服務規程、コンプライアンス規程等を整備し、職員の法令・企業倫理の遵守を徹底する。
2. 業務における適法・適正な手続き・手順を明示した規程類を整備し運用する。
3. 適法・適正な業務運営が行われていることを確認するため、内部監査機能による監査を実施する。

VI. 監事はその職務を補助すべき職員を置くことを求めた場合における当該職員に関する事項  
当協会において、監事の職務を補助すべき職員は当面配置しない。但し、監事会から当該職員の配置を求められた場合は、専任の担当者を配置し、かつ専任者の独立性を確保する体制とする。

### VII. 監事の職務を補助すべき職員の理事からの独立性に関する事項

1. 監事補助スタッフの職務執行については、理事の指揮命令からの独立性を確保する。
2. 監事補助スタッフの人事に関する事項については、必要に応じて監事の意見を尊重する。

### VIII. 理事および職員が監事に報告をするための体制その他の監事への報告に関する体制

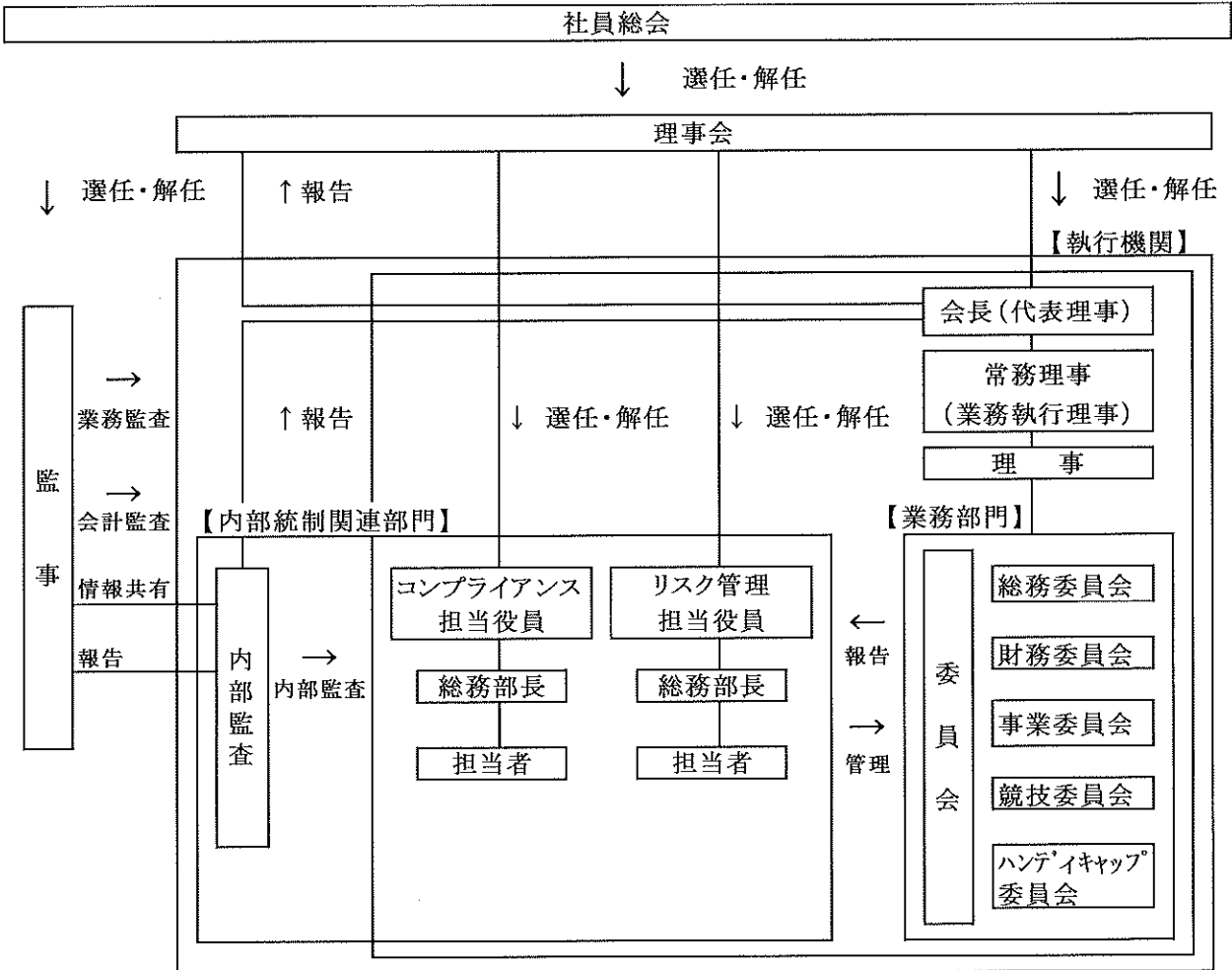
1. 理事および職員は、当協会に重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況に関する事項等の内容を、監事に速やかに報告する。
2. 監事会による業務執行理事並びに理事、その他使用人から随時個別にヒアリングする機会を積極的に設け、さらに、会長(代表理事)および監事会との間において、定期的に意見交換する機会を設けるものとする。
3. 重要な会議には監事の出席を求めるとともに、議事録を作成する場合は、これを監事に送付する。

IX. 監事の監査が実行的に行われることを確保するための体制

1. 監事は業務執行状況を把握するため、理事会に出席するほか、必要に応じ重要な会議に出席できる。
2. 会長(代表理事)と監事との定期的な意見交換の実施や、内部監査部署と監事との緊密な関係などにより、当協会の業務の適正性確保のため必要な措置を講じることができるものとする。

以上に関連する規程・規則等は、平成23年度第1回理事会(平成23年6月13日開催)に於いて決議済である。

【当協会の機関及び企業統治体制の状況】



## ■公益目的事業1. ゴルフ競技会開催事業

### I. 概況

本事業はゴルフの普及振興を図るために、全国でアマチュアゴルファーを対象としたゴルフ競技会を開催する。競技は、1.スクラッチ競技と、2.アンダーハンディ競技があり、平成25年度の総参加者数は34,166名であったが、平成26年度は33,813名(前年度比353名減)を計画している。

参加資格はアマチュアゴルファー、ゴルフ技量は自己申告制で、言わばアマチュアゴルファーであれば、誰でも日頃の研鑽の腕試しの場として参加できる門戸の開かれた競技会である。

### II. 開催競技と競技参加者数計画

#### 1. 開催競技

開催競技(略称)	
I.スクラッチ競技	
1.第48回 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技(パ選)	
2.第14回 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技(女子パ選)	
3.第20回 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(シニア)	
4.第20回 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(女子シニア)	
5.第11回 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(ミッドシニア)	
6.第 8回 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技(ミッドアマ)	
II.アンダーハンディ競技	
1.アンダーハンディ競技(予選) (1)PGS スポンサー杯 (2)PGS ハンディ杯	
2.アンダーハンディ競技(決勝) (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー	
3.PGSドリーム・エイジゴルフ大会 (1)個人戦 (2)団体戦	
4.PGS西日本月例杯	
5.PGS中部日本月例杯(みんなでうきうき旅ゴルフ)	
6.PGS東日本クラブ対抗戦	
7.PGS中部日本クラブ対抗戦(中部日本地区ゴルフ場対抗戦)	

#### 2. 競技参加者数計画

競技		平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年度比
I.スクラッチ競技					
パブリック選手権	男子	6,269	5,808	5,450	▲358
	女子	790	821	700	▲121
	計	7,059	6,629	6,150	▲479
シニア選手権	男子	1,569	1,530	1,500	▲ 30
	女子	312	311	300	▲ 11
	ミッド	960	962	900	▲ 62
	計	2,841	2,803	2,700	▲103
ミッドアマ選手権	男子	5,070	5,153	5,150	▲ 3
	女子	557	569	550	▲ 19
	計	5,627	5,722	5,700	▲ 22
合計		16,016	15,154	14,550	▲604
II.アンダーハンディ競技					
PGSスポンサー杯・ハンディ杯(予選)		6,448	6,835	6,300	▲535

PGSスポンサー杯・ハンディ杯(決勝)	1,139	1,274	1,350	76
PGSドリーム・エイジゴルフ大会(予選)	452	611	420	▲191
PGSドリーム・エイジゴルフ大会(決勝)	80	136	100	▲36
PGS西日本月例杯	9,594	9,249	10,000	751
PGS中部日本月例杯(みんなでうきうき旅ゴルフ)	476	491	590	99
PGS東日本クラブ対抗戦	393	416	393	▲23
PGS中部日本クラブ対抗戦(中部日本地区ゴルフ場対抗戦)			110	110
合計	18,582	19,012	19,263	251
総計	34,109	34,166	33,813	▲353

### Ⅲ.平成26年度競技の改善点

#### 1.PGS中部日本クラブ対抗戦(中部日本地区ゴルフ場対抗戦)の新設

当競技は、平成26年度競技より中部日本地区の協会競技としてスタートする。中部日本地区加盟クラブの相互親睦と競技会を通して所属クラブ意識の向上と充実したクラブライフを実現することを目的としたクラブ対抗戦で、中部日本地区加盟11クラブで開催する。

#### 2.3選手権競技参加料の改定

パ選、シニア、ミッドアマの3選手権競技参加料を、従来の予選・地区決勝・全日本を通じて一律6,000円から、予選6,000円、地区決勝3,000円、全日本3,000円に変更する。

#### 3.3選手権競技の全日本シード拡充

平成26年度よりパ選、シニア、ミッドアマの3選手権競技全日本大会上位選手のシード権を下記の通り拡充する。

- (1)優勝者:翌年度から5年間の全日本大会シード権
- (2)第2位～第5位:翌年度全日本大会シード権

#### 4.PGSアンダーハンディ競技予選・地区決勝の上限ハンディキャップの変更

JGAハンディキャップ規定(USGA準拠)の変更に伴い、競技会参加時のJGA/USGAハンディキャップインデックスの上限を男子36.4、女子40.4に変更する。

#### 5.他団体競技のシード権追加

公益財団法人日本ゴルフ協会(JGA)、関東ゴルフ連盟(KGA)他8連盟等にシード権の追加申請をし、下記のシード権が付与された。

[新規認可]

- 関西ゴルフ連盟 : 関西女子アマチュアゴルフ選手権 (西日本女子パ選1位)  
 関西シニアゴルフ選手権決勝(西日本シニア1位)  
 関西女子シニア選手権(西日本女子シニア1位)

(参考:平成26年度他団体主催競技シード権一覧)

◆パブリック選手権						
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本アマチュアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない
		中部ゴルフ連盟	当年度	中部オープンゴルフ選手権決勝	1位	中部日本地区の出場者に限る

		中部ゴルフ連盟	翌年度	中部アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	中部日本地区の出場者に限る	
地区決勝	北海道・青森	北海道ゴルフ連盟	翌年度	北海道アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
			翌年度	北海道アマチュアゴルフ選手権予選	2～10位	当該地区居住者	
			翌年度	北海道オープンゴルフ選手権予選	1～10位	当該地区居住者	
		東北ゴルフ連盟	翌年度	東北アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
			ノン倶楽部メンバー				
		翌年度	東北アマチュアゴルフ選手権青森県予選	ノン倶楽部メンバー	当該地区居住者上位3～10位		
	北海道日刊スポーツ新聞社	翌年度	日刊アマ全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権北海道大会	上位2名	当該地区居住者		
		東日本ABC	関東ゴルフ連盟	翌年度	関東アマチュアゴルフ選手権ブロック大会	1位	当該地区居住者
				翌年度	関東アマチュアゴルフ選手権予選	2位～10位	当該地区居住者
	日刊スポーツ新聞社	当年度	日刊アマ全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権関東決勝	1～2位	男子のみ		
	中部日本	中部ゴルフ連盟	当年度	中部オープンゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
			当年度	中部オープンゴルフ選手権予選	2位～30位	当該地区居住者	
翌年度			中部アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者		
翌年度			中部アマチュアゴルフ選手権予選	2～30位	当該地区居住者		
西日本 関西	関西ゴルフ連盟	翌年度	関西アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者		
		翌年度	関西アマチュアゴルフ選手権予選	2～10位	当該地区居住者		
	サンケイスポーツ	当年度	近畿オープンゴルフ選手権	1位	当該地区居住者		
西日本 中国	中国ゴルフ連盟	翌年度	中国アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者		
西日本 四国	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者		
		翌年度	四国アマチュアゴルフ選手権予選	2～3位	当該地区居住者		
西日本 九州	九州ゴルフ連盟	翌年度	九州アマチュア選手権決勝	1位	当該地区居住者		
		翌年度	九州アマチュア選手権予選	2～5位	当該地区居住者		

#### ◆女子パブリック選手権

競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本女子アマチュアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない
		中京TV・BS (公認:LPGA)	翌年度	中京テレビ・ブリヂストンレディス主催者推薦選考会	1位	
地区決勝	中部日本	中部ゴルフ連盟	翌年度	中部女子アマチュアゴルフ選手権	1～20位	当該地区居住者
	西日本	関西ゴルフ連盟	翌年度	関西女子アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
		四国ゴルフ連盟	翌年度	四国女子アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者

#### ◆パブリックミッドアマチュア選手権

競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本ミッドアマチュアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない
		中部ゴルフ連盟	翌年度	中部ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
地区決勝	北海道・青森	北海道ゴルフ連盟	翌年度	北海道ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
			翌年度	北海道ミッドアマチュアゴルフ選手権予選	2～10位	当該地区居住者

	東北ゴルフ連盟	当年度	権予選	1位	当該地区居住者	
			東北ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝			
	ハン倶楽部メンバー					
	北海道日刊スポーツ新聞社	翌年度	日刊アマ全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権北海道大会	上位2名	当該地区居住者	
			上位2名			
	中部日本	中部ゴルフ連盟	当年度	中部ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
当年度			中部ミッドアマチュアゴルフ選手権予選	2～20位	当該地区居住者	
西日本	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国ミッドアマチュアゴルフ選手権	1位	当該地区居住者	

#### ◆シニアパブリック選手権

競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本シニアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない
地区決勝	中部日本	中部ゴルフ連盟	翌年度	中部シニアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
			翌年度	中部シニアゴルフ選手権予選	2～20位	当該地区居住者
	西日本	関西ゴルフ連盟	翌年度	関西シニアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
			翌年度	四国シニアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者

#### ◆女子シニアパブリック選手権

競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	翌年度	日本女子シニアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない
地区決勝	中部日本	中部ゴルフ連盟	当年度	中部女子シニアゴルフ選手権	1～20位	当該地区居住者
	西日本	関西ゴルフ連盟	翌年度	関西女子シニアゴルフ選手権	1位	当該地区居住者

#### ◆ミッドシニアパブリック選手権

競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本ミッドシニアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない
地区決勝	中部日本	中部ゴルフ連盟	翌年度	中部ミッドシニアゴルフ選手権	1～10位	当該地区居住者
	西日本	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国ミッドシニアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者

#### ◆グランドマンズリー

競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
地区決勝	全地区	日本ゴルフ協会	当年度	JGA杯J-sysゴルフ選手権	4名	男子AB、女子ABクラス各1名

### IV. 競技開催要項

#### 1. 参加資格

競技名	参加資格	年齢資格
<b>I. スクラッチ競技</b>		
1. パ選	1. 日本ゴルフ協会ゴルフ規則に規定されたアマチュアゴルファー 2. 高等学校までに在学している生徒は、学校長・保護者等責任者の署名入り参加許可証が必要	なし
2. 女子パ選		
3. シニア		男子55歳以上
4. 女子シニア		女子50歳以上
5. ミッドシニア		男子65歳以上



6.ミッドアマ	3.誰でも参加できる。ハンディキャップ20.0程度以上が望ましい	男女とも30歳以上
<b>II.アンダーハンディ競技</b>		
1.アンダーハンディ競技(予選) (1)PGS スポンサー杯 (2)PGS ハンディ杯	PGS 会員で JGA/USGA ハンディキャップインデックスの取得者	なし
2.アンダーハンディ競技(決勝) (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グラントマンズリー		
3.PGS ドリーム・エイジゴルフ大会	なし	男女とも65歳以上
4.PGS 西日本月例杯	PGS 会員で JGA/USGA ハンディキャップインデックスの取得者	なし
5.PGS 中部日本月例杯 (みんなであきうき旅ゴルフ)	PGS 会員で JGA/USGA ハンディキャップインデックスの取得者 JGA/USGA ハンディキャップインデックス取得を目指すアマチュアゴルファー	
6.PGS 東日本クラブ対抗戦	PGS 会員で JGA/USGA ハンディキャップインデックスの取得者	
7. PGS 中部日本クラブ対抗戦 (中部ゴルフ場対抗戦)		

(注)1. PGS 会員:JGA/USGA ハンディキャップインデックスの取得を目的とした当協会の会員で、誰でも会員になれる

## 2.競技の概要

### ■スクラッチ競技

#### [1]平成26年度第48回全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技

パブリック選手権はアマチュアゴルファーであれば誰でも参加できる開かれた檜舞台であり、またトップアマへの登竜門でもある。なお、平成26年度よりレオパレスリゾートカントリークラブ(ガム)を舞台に、新たにパブリック選手権ガム予選の開催について検討中である。

### ◆競技日程

#### 1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
予選数	35	17	35	4	91

(1)18ホールストロークプレー

#### 2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1. 東日本 A	ウィンザーパーク ゴルフ アンド カントリークラブ	5/21(水)-22(木)
2. 東日本 B	山中湖畔 富士ゴルフコース	5/21(水)-22(木)
3. 東日本 C	千葉よみうりカントリークラブ	5/ 5(祝)- 6(火)
4. 中部日本	小杉カントリークラブ	5/21(水)-22(木)
5. 西日本 関西	マスターズゴルフ倶楽部	5/13(火)-14(水)
6. 西日本 中国	米子ゴルフ場	5/15(木)-16(金)

7. 西日本 四国	コート・ベール徳島ゴルフクラブ	5/21(水)-22(木)
8. 西日本 九州	トム・ワトソンゴルフコース	5/20(火)-21(水)
9. 北海道・青森	随縁カントリークラブ恵庭コース	8/25(月)-26(火)

- (1) 出場資格者 : 各地区予選通過者180名、及びシード選手  
(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)

### 3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	那須野ヶ原カントリークラブ	6/18(水)-19(木)

- (1) 出場資格者 : 各地区決勝通過者180名、及びシード選手  
(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)  
(3) 上位者2名には、公益財団法人日本ゴルフ協会主催 日本アマチュアゴルフ選手権競技 平成26年7月8日(火)～12日(土)利府ゴルフ倶楽部(宮城県)の出場資格が付与される。

### 4. グラム予選(検討中)

	開催コース	開催日
予選	レオパレスリゾートカントリークラブ	9月開催予定

- (1) 出場資格者 : グラム在住の全てのアマチュアゴルファー  
(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技・予定)  
(3) 上位者3名には、平成27年度パブリック選手権全日本大会の出場資格を付与する。

## [2]平成26年度第14回全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技

第4回大会までは全日本男・女パブリックアマチュアゴルフ選手権競技の名称で男子部門、女子部門を同日・同会場で開催していたが、参加者数の増大を機に平成17年度第5回大会から女子部門を独立させ、競技名称も全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技に改称し、単独競技となって10回目を迎える。

なお、平成25年度より中部日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技は、従来の予選・地区決勝競技を、地区決勝競技(2日間36ホールストロークプレー)に一本化した。

## ◆競技日程

### 1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	20	—	26	46

- (1) 18ホールストロークプレー

### 2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日
1. 東日本	イーストウッドカントリークラブ	5/8(木)
2. 中部日本	ウッドフレンズ森林公園ゴルフ場	5/8(木)-9(金)
3. 西日本	奥津ゴルフ倶楽部	5/9(金)

- (1) 出場資格者 : 各地区予選通過者180名、及びシード選手。中部日本は、競技申込者  
(2) 18ホールストロークプレー。中部日本は、36ホールストロークプレー(2日間競技)

### 3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	北神戸ゴルフ場	6/4(水)-5(木)

(1) 出場資格者 : 各地区決勝通過者180名、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)

(3) 上位者2名には、公益財団法人日本ゴルフ協会主催 日本女子アマチュアゴルフ選手権競技 平成26年6月24日(火)～28日(土)大洗ゴルフ倶楽部(茨城県)のシード権が付与される

#### [3]平成26年度第8回全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技

近年のジュニアゴルファーの台頭と共に、パブリック選手権はジュニア選手が上位を独占する傾向が顕著であり、アマチュアゴルファーの層が厚いミッド世代の腕前を競う競技として、平成17年度に西日本ミッドアマ選手権を創設した。その後、競技参加者数も順調に増加し、平成19年度より全日本を、平成20年度より地区決勝を立ち上げた。

#### ◆競技日程

##### 1.予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
男子の部	32	13	35	4	84
女子の部	16	7	18	—	41

(1) 18ホールストロークプレー

##### 2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1. 東日本A	鹿島南蓼科ゴルフコース	7/22(火)-23(水)
2. 東日本B	八千代ゴルフクラブ	7/24(木)-25(金)
3. 中部日本	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)	7/29(火)-30(水)
4. 西日本	グランドオークプレイヤーズコース	7/17(水)-18(木)
5. 北海道・青森	ダイナスティゴルフクラブ	7/25(金)

(1) 出場資格者 : 各地区予選通過者180名、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)。北海道・青森は、18ホールストロークプレー

##### 3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	オールドオーチャードゴルフクラブ	9/17(水)-18(木)

(1) 出場資格者 : 各地区決勝通過者180名、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)

(3) 男女上位者各2名には、公益財団法人日本ゴルフ協会主催 日本ミッドアマチュアゴルフ選手権競技 平成26年11月19日(水)～21日(金)坂出カントリークラブ(香川県)、日本女子ミッドアマチュアゴルフ選手権競技 平成26年11月20日(木)～21日(金)リージャスクレストゴルフクラブ GRAND コース(広島県)の出場資格が付与される。

#### [4]平成26年度第20回全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

男子シニア、女子シニア選手権競技とも第20回大会、ミッドシニア選手権競技は第11回大会を迎えシニア層に定着してきた。平成23年度より男子シニア、女子シニアと男子ミッドシニ

アは地区決勝・全日本を同日・同会場で開催している。

◆競技日程

1.予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	23	11	26	60

(1)18ホールストロークプレー

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1.東日本	紫あやめ36	9/25(木)-26(金)
2.中部日本	亀山ゴルフクラブ	9/29(月)-30(火)
3.西日本	よみうりゴルフ ウェストコース	9/25(木)-26(金)

(1)出場資格者 :各地区予選通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手

(2)36ホールストロークプレー(2日間競技)

3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	トム・ワトソンゴルフコース	10/15(水)-16(木)

(1)出場資格者 :各地区決勝通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手

(2)36ホールストロークプレー(2日間競技)

(3)上位者2名には、公益財団法人日本ゴルフ協会主催の日本シニアゴルフ選手権競技平成26年11月12日(水)～14日(金)小野ゴルフ倶楽部(兵庫県)のシード権が付与される

[5]平成26年度第20回全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成23年度より男子シニア、女子シニアと男子ミッドシニアは地区決勝・全日本を同日・同会場で開催することとし、これに伴い、地区決勝は1日競技から2日間競技へと充実した。

◆競技日程

1.予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	11	7	17	35

(1)18ホールストロークプレー

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1.東日本	紫あやめ36	9/25(木)-26(金)
2.中部日本	亀山ゴルフクラブ	9/29(月)-30(火)
3.西日本	よみうりゴルフ ウェストコース	9/25(木)-26(金)

(1)出場資格者 :各地区予選通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手

(2)36ホールストロークプレー

### 3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	トム・ワトソンゴルフコース	10/15(水)-16(木)

- (1) 出場資格者 : 各地区決勝通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手
- (2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)
- (3) 上位者2名には、公益財団法人日本ゴルフ協会主催 平成27年度日本女子シニアゴルフ選手権競技(開催日、場所未定)の出場資格が、付与される

### [6]平成26年度第11回全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成16年度よりミッドシニア層(65歳以上)の要望に応え、高齢者ゴルファーが参加し易い競技にすべく、男子部門のみであるが予選から全日本まで通して独立競技とする改善を実行し、本年度は第10回大会を迎えるが一層の参加者の拡大を期したい。

#### ◆競技日程

##### 1.予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	16	11	23	50

- (1) 18ホールストロークプレー

##### 2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1.東日本	紫あやめ36	9/25(木)-26(金)
2.中部日本	亀山ゴルフクラブ	9/29(月)-30(火)
3.西日本	よみうりゴルフ ウェストコース	9/25(木)-26(金)

- (1) 出場資格者 : 各地区決勝通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手
- (2) 36ホールストロークプレー

##### 3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	トム・ワトソンゴルフコース	10/15(水)-16(木)

- (1) 資格者 : 各地区予選通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手
- (2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)
- (3) 上位者2名には、公益財団法人日本ゴルフ協会主催 日本ミッドシニアゴルフ選手権競技 平成26年11月10日(月)~11日(火)奈良国際ゴルフ倶楽部(奈良県)の出場資格が付与される

#### ■アンダーハンディ競技

- [1]アンダーハンディ競技(予選) (1)PGSスポンサー杯 (2)PGSハンディ杯
- [2]アンダーハンディ競技(決勝) (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー

#### ◆開催要項

##### 1.参加資格

競技名	参加資格	競技方法
-----	------	------

1.予選 (1)PGSスポンサー杯 (2)PGSハンディ杯	PGS 会員	アンダーハンディ競技 18ホールストロークプレー
2.決勝 (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯	PGS スポンサー杯予選の上位者 各予選のベストグロス者	
(3)グランドマンスリー	PGS スポンサー杯、PGS ハンディ杯予選の上位者、各予選のベストグロス者	

(注)PGS 会員:JGA/USGA ハンディキャップインデックスの取得を目的とした当協会の会員で誰でも会員になれる

## 2.競技要項

### (1)PGS スポンサー杯予選

PGS 会員を対象としたアンダーハンディ競技で、ダンロップ杯、ブリヂストン杯、サンレオ杯、の3冠競技がある。平成26年度はダンロップ杯43回、ブリヂストン杯24回、サンレオ杯13回、合計80回の開催を予定し、11月に東日本・中部日本および西日本の3地区で地区決勝大会を開催する。

### (2)PGS ハンディ杯予選

PGS 会員を対象とした当協会主催のアンダーハンディ競技。平成26年度は予選競技を25回開催する。

### (3)ダンロップ杯決勝

ダンロップ杯予選の上位者、およびベストグロス者による決勝大会(東・中部・西日本地区)。

### (4)ブリヂストン杯決勝

ブリヂストン杯予選の上位者、およびベストグロス者による決勝大会(東・中部・西日本地区)。

### (5)グランドマンスリー決勝

ダンロップ杯、ブリヂストン杯、サンレオ杯、PGS ハンディ杯の各予選の上位者、および各予選のベストグロス者による決勝大会(東・中部・西日本地区)。

男子A・Bクラス、女子A・Bクラス各1名に、公益財団法人日本ゴルフ協会主催 JGA 杯 J-sys ゴルフ選手権 平成26年12月3日(水)茨木カンツリー倶楽部(大阪府)の出場資格が付与される。(対象地区:西日本)

## ◆競技日程

### 1.予選

予選数		東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
1.PGS スポンサー杯	ダンロップ杯	16	7	20	—	43
	ブリヂストン杯	10	5	9	—	24
	サンレオ杯	5	4	4	—	13
2.PGSハンディ杯		9	5	7	4	25
合計		40	21	40	4	105

### 2.決勝

#### (1)ダンロップ杯

地区	開催コース	開催日
1.東日本	八千代ゴルフクラブ	11/26(水)
2.中部日本	定光寺カントリークラブ	11/ 6(木)
3.西日本	西神戸ゴルフ場	11/ 5(水)

## (2)ブリヂストン杯

地区	開催コース	開催日
1.東日本	千葉よみうりカントリークラブ	平成27/3/5(木)
2.中部日本	ウッドフレンズ森林公園ゴルフ場	10/23(木)
3.西日本	北神戸ゴルフ場	11/27(木)

## (3)グランドマンスリー

地区	開催コース	開催日
1.東日本	ムーンレイクゴルフクラブ市原コース	11/4(木)
2.中部日本	名古屋広幡ゴルフコース	11/19(木)
3.西日本	青野運動公苑アオノゴルフコース	11/12(水)

## [3]PGSドリーム・エイジゴルフ大会

ゴルフを通じて高齢者の健康保持増進への寄与は、公益社団法人としての当協会の事業目的の一つであり、平成21年度より「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」を立ち上げた。競技は65歳以上のゴルファーを対象とし、当初は当協会独自の「PGSドリーム・エイジハンディキャップ」(年齢にラウンド中の歩数に応じたハンディキャップを加算)を適用し開催していたが、平成25年度競技より歩数ハンディキャップを廃止し、年齢ハンディキャップのみを適用した競技方法に変更した。ゴルフと健康の保持増進を結びつけたユニークな競技であり、平成23年度よりゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の後援を受けている。

### ◆競技日程

#### 1.予選

予選開催数	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
1.個人戦	9	8	9	0	26
2.団体戦	1	—	—	—	1
合計	10	8	9	0	27

(1)18ホールストロークプレー

(2)グロス・スコアから年齢を引いたネット・スコアにより順位を決定

(3)ゴールドティ使用

#### 2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1.東日本	那須野ヶ原カントリークラブ	10/21(火)
2.中部日本	グランシエロゴルフ倶楽部	10/29(水)
3.西日本	つるやカントリークラブ西宮北コース	10/27(月)

(1)競技方法：予選と同じ

## [4]PGS西日本月例杯

PGS 西日本月例杯はアンダーハンディ競技の充実を図るための、PGS 会員を対象としたアンダーハンディ競技である。以前は東日本・中部日本でも開催していたが、現在は西日本地区のみで開催している。今後 JGA/USGA ハンディキャップインデックスの取得推進、アンダーハンディ競技の充実の観点から、課題を整理の上再度全日本競技を目指したい。

なお、平成25年度より、PGS 西日本月例杯西近畿決勝大会を前期、後期の2回に分け開催している。

(1)開催回数

	関西地区	中国地区	四国地区	九州地区	合計
開催数	97	47	20	4	168

(2)参加資格 :PGS会員でJGA/USGAハンディキャップインデックスを取得している者

(3)競技方法 :18ホール・ストロークプレー、アンダーハンディ競技

[5]PGS中部日本月例杯(みんなでうきうき旅ゴルフ)

平成21年度より新規競技会「PGS中部日本月例杯:みんなでうきうき旅ゴルフ」がスタートした。ゴルファーは自分のゴルフ技量を、公正な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任があるが、当協会は従来からわが国唯一の公認ハンディキャップであるJGA/USGAハンディキャップインデックスの普及振興に努めており、アマチュアゴルファーの証である同ハンディキャップの取得機会の一層の拡大を目指した競技会である。

■予選

①開催会場 :中部日本会員コース 10コース

②参加資格 ・アンダーハンディ競技:PGS会員でJGA/USGAハンディキャップインデックスの取得者。  
・ダブルペリア競技:PGS会員、及びJGA/USGAハンディキャップインデックス取得を目指すアマチュアゴルファー

③競技方法 ・18ホール・ストロークプレー(アンダーハンディ競技)  
・ダブルペリア競技

■決勝

①開催日 :平成27年3月17日(火)

②開催会場 :アリジカントリークラブ 花垣コース

③参加資格 :各予選の通過者、及び特典(多回数参加者)によるシード選手

④競技方法 :・18ホール・ストロークプレー(アンダーハンディ競技)  
・ダブルペリア競技

[6]PGS東日本クラブ対抗戦

平成21年度より東日本地区の協会競技としてスタートした。JGA/USGAハンディキャップインデックスの普及振興を目指したクラブ対抗戦で、東日本地区を4ブロックに分けブロック予選を開催、各ブロックより男女各2チーム、並びに決勝大会開催クラブより男女2チーム、前年度優勝クラブ代表男女2チームをシードにより加えた合計12チームで決勝大会を開催する。

■ブロック予選

(1)参加資格

東日本地区会員クラブの何れかでPGS会員登録をし、JGA/USGAハンディキャップインデックスを取得しているアマチュアゴルファー

(2)競技方法

①18ホールストローク・アンダーハンディ競技(JGA/USGAハンディキャップインデックス)

②ハンディキャップの下限 :男子部門20.0、女子部門30.0

③順位決定 :男子部門は出場選手の内、上位5名のネットスコア合計による  
女子部門は出場選手の内、上位3名のネットスコア合計による



### (3)開催日・会場・出場クラブ

ブロック	出場クラブ	ブロック予選	開催日
Aブロック	那須野ヶ原、イーストウッド、ハーモニーヒルズ、ウインザーパーク、うぐいすの森水戸、下館、オールドオーチャード	ウインザーパークゴルフアンドカントリークラブ	10月3日
Bブロック	古河、新玉村、前橋、上武、朝霞、妻沼、大麻生、三井の森	妻沼ゴルフ場	10月2日
Cブロック	市原、市原・柿の木台、ムーンレイク鶴舞、千葉よみうり、八千代、ムーンレイク市原、紫あやめ36、新君津、デイスター	千葉よみうりカントリークラブ	10月3日
Dブロック	昭和の森、清里、小淵沢、富士見高原、篠ノ井、富士グリーンヒル、鹿島南蓼科	篠ノ井ゴルフパーク:ウイゴ	10月1日

### (4)ブロック予選代表チーム

各ブロック2クラブ(1クラブ男子部門8名、女子部門5名)

(注)決勝大会開催クラブ、前年度優勝クラブが上位2クラブに入賞した場合は、繰り下げて出場資格を付与する

### ■決勝大会

(1)開催会場 :鹿島南蓼科ゴルフコース

(2)開催日 :前夜祭 平成26年10月23日(木)・クラブ対抗戦 10月24日(金)

(3)参加資格 :①PGS 東日本各ブロック予選の男女各上位2クラブ  
②決勝大会開催クラブ、及び前年度優勝クラブより各男女2クラブ

(4)チーム編成 :1クラブ男子部門8名・女子部門5名

(5)競技方法 :①18ホールストロークプレー  
②ハンディキャップは最新のJGA/USGAハンディキャップインデックスを適用(男子部門20.0、女子部門30.0まで)  
③男子部門 :上位5名のネットスコアの合計スコアによる  
女子部門 :上位3名のネットスコアの合計スコアによる

### [7]PGS中部日本クラブ対抗戦(中部日本地区ゴルフ場対抗戦)

平成26年度より中部日本地区の協会競技としてスタートする。中部日本地区加盟クラブの相互親睦と競技会を通して所属クラブ意識の向上と充実したクラブライフを実現することを目的としたクラブ対抗戦で、中部日本地区加盟11クラブで開催する。

#### (1)参加資格

中部日本地区会員クラブの何れかでPGS会員登録をし、JGA/USGAハンディキャップインデックスを取得しているアマチュアゴルファー(満年齢20歳以上)。1クラブ8名(男女混合)

#### (2)競技方法

- ①18ホールストローク・アンダーハンディ競技(JGA/USGAハンディキャップインデックス)
- ②ハンディキャップの下限 :男子部門30.0、女子部門30.0
- ③順位決定 :出場選手8名の内、上位6名のネットスコア合計による

#### (3)開催日・会場

- ①開催会場:名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)

- ②開催日:前夜祭 平成26年3月19日(水)・クラブ対抗戦 3月20日(木)
- (4)ブロック予選代表チーム  
各ブロック2クラブ(1クラブ男子部門8名、女子部門5名)
- (注)決勝大会開催クラブ、前年度優勝クラブが上位2クラブに入賞した場合は、繰り下げて出場資格を付与する

## ■公益目的事業2. ゴルフ普及振興事業

### I. 調査・研究事業

#### 1. 平成26年度調査・研究事業

公益社団法人認定を機にメイン事業のゴルフ普及振興に加えて、ゴルフ普及振興事業の調査研究事業の充実を図り、その成果を世の中に広く情報発信する事業である。直前4事業年度の調査・研究事業の実施状況は下記の通りであるが、近年の競技参加者数減少により協会収支状況が逼迫しており、また平成24年度実施の「PGSゴルファーのゴルフ動態調査」の毎年実施の有効性の有無、あるいは2～3年毎の実施で効果は十分見込めるとの議論、一方には、公益財団法人日本ゴルフ協会(JGA)・一般社団法人日本ゴルフ場事業協会(NGK)・ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)と連携し、ゴルフ界挙げての調査・研究事業に拡大・充実を図るとの議論がある。従って、平成25年度はその検討状況待ちとし取りあえず見送りとした。

(参考)直前4事業年度の調査・研究事業

年度	調査・研究内容
平成22年度	ゴルフのプレー頻度がゴルファーの健康や生活に及ぼす影響
平成23年度	中止
平成24年度	ゴルファーのゴルフ動態調査
平成25年度	中止

### II. セミナー・研修事業

本事業は生涯スポーツであるゴルフの普及振興のために、セミナー・研修会を通じてゴルファーの啓蒙に資するための事業を実施する。また、一層質の高い競技会の実現を目指して、競技会の運営・競技委員を対象にゴルフ・ルール、コースセッティング方法等、競技会運営に係わる技術向上を目指した研修会を開催する事業である。

#### 1. 平成26年度セミナー開催予定

日時	平成26年6月25日(水)	場所	中部日本地区(場所未定)
テーマ	未定		
講師	未定		

(参考)直前4事業年度のセミナー開催実績

年度	テーマ	講師
平成22年度	アンチエイジング・ゴルフという考え方	齋藤 真嗣(ニューヨーク州医師)
平成23年度	未開催(東日本大震災の影響による財政逼迫化から開催見送り)	
平成24年度	未開催(創立50周年記念パーティー開催のため見送り)	
平成25年度	2012PGSゴルフ動態調査結果報告	山岸 勝信(WAY企画 代表・GMAC有識者委員)

2.平成26年度研修会開催予定

(1)グリーンキーパー研修会

日時	平成26年4月3日(木)	場所	グランシエロゴルフ倶楽部
テーマ	未定		
講師	未定		

(参考)直前4事業年度の研修会開催実績

年度	テーマ
平成22年度	ベントグリーン全面張替とコース管理
	2009年度コース管理について
平成23年度	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)のコース管理について
	土壌改善による健康な芝作り
平成24年度	夏季ベントグリーンの管理について
	グリーンの排水改善について
平成25年度	夏場のグリーン管理
	インターシードによるグリーンコンディション向上について

III.交流・協力事業

ゴルフ業界を取り巻く環境は厳しいが、ゴルフの普及振興のためにゴルフ界諸団体は連携・協力してゴルフ市場活性化に向けた様々な活動を展開する必要がある。ゴルファー人口の底辺拡大はゴルフを通じて国民の心身の健全な発展、豊かな人間性の涵養、高齢者の健康の保持増進、また児童・青少年の健全な育成に資するもので、この観点から当協会はゴルフ界諸団体と連携・協力して、ゴルフ市場の活性化に向けた事業を展開する。

1.平成26年度の交流・協力事業実施計画

(1)日本ゴルフサミット会議

日本ゴルフサミット会議はゴルフ業界17団体で構成され、平成26年度は次のテーマの下に活動するが、当協会も歩調を合わせた活動を展開する。

①日本ゴルフサミット会議

日時	平成26年1月22日(水) 10:00~11:20	内容	2014年活動テーマの決定 1.ゴルフの活性化をはかる 2.ゴルフ界は社会貢献に積極的に取り組む 3.ゴルフ場利用税廃止運動の継続 4.国家公務員倫理規程における「ゴルフ」の削除
場所	ANAインターコンチネンタルホテル東京		

②ゴルフ新年会の開催

日時 平成26年1月22日(水) 11:30~15:00

場所 ANAインターコンチネンタルホテル東京

③「ゴルフウィーク」の継続

平成25年度より、ゴルフ界活性化対策として「ゴルフウィーク」(毎年8月1日より1週間)を立ち上げたが、平成26年度も引続きゴルフウィークを継続する。

④日本ゴルフサミット会議運営会議に参加(隔月開催)

(2)ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)

ゴルフ界の現況下、新たなゴルフ需要の創造と、ゴルフの健全成長に向けた様々な取り組みが展開されている。ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)は、平成15年10月に発表された『ゴルフ市場活性化行動計画検討会報告書』(経済産業省)に基づき、平成16年9月にゴルフ業界5団体(注)により発足した。「始めよう、続けよう、もっとゴルフを」のスローガンの下に、(1)「スクランブルゴルフ」の提唱、(2)「経済産業大臣杯全国チーム対抗戦」(日本ゴルフ場事業協会主催)の支援、並びに(3)平成23年度には当協会の「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」が、当委員会の後援が決定する等、業界5団体が連携してゴルフ市場の活性化に向けた活動を展開しており、平成25年度も継続して展開する。

なお、平成24年度から、関西地区ゴルフ市場活性化委員会(関西GMAC)が立ち上がり、当協会もその構成メンバーとして活動している。

① ゴルフ市場活性化策「ゴルマジ! 20」活動

平成26年度より、新たに若年層ゴルファー活性化の取組みの一つとして、リクルート社提案の企画「ゴルマジ! 20」の採用を決定した。

(注)構成団体:公益財団法人日本ゴルフ協会、一般社団法人日本ゴルフ場事業協会、一般社団法人日本ゴルフ用品協会、公益社団法人全日本ゴルフ練習場連盟、および当協会

(3)NPO 日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)

NPO日本ジュニアゴルファー育成協議会は、「ゴルフをツールとした子どもたちの健全育成」を原点に活動をしている。斯業界の実情は、業界関係者は業界を挙げて市場活性化に向けた活動をする必要があり、同協議会のジュニアゴルファーの育成は青少年の健全な育成に加え、ゴルフ業界の裾野拡大が期待でき首肯できる。当協会は同協議会の構成メンバーとして、平成26年度も引き続き同協議会と連携して活動する。

IV.機関紙発行事業

当協会主催競技に関して競技開催案内、年間競技スケジュール、競技の模様、競技成績並びにアマチュアゴルファーの啓蒙等を目的として、機関紙「PGSニュース」を年1回(2月)に発刊しており、既に81号を重ね我が国のパブリックゴルフ史としても貴重な資料である。

平成26年度も発刊は継続する予定であるが、競技参加者数減少に起因した収支の悪化から財政再建中であり、平成26年度より発刊財源を外部団体の助成金に依存する予定(申請中)である。従って、助成金の認可如何によって発刊は継続するが、HP上での公表が中心となりペーパーレス化を余儀なしとされる懸念がある。

V.その他のゴルフ普及振興事業

ゴルフ業界の長期的展望は少子高齢化の加速や人口減少から、市場規模は縮小化の方向にあり、引き続き経営環境は厳しいと予想される。この様な状況下、ゴルフ業界は一層連携を強化し、新規ゴルファーの育成、需要創出が喫緊の課題であり、当協会もゴルフ市場の活性化に

向けゴルファーの底辺拡大施策等様々な取組みを推進する。

### 1. ジュニアゴルファー育成の取組み

NPO法人日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)の活動目的のジュニアゴルファーの育成は青少年の健全な育成に資するものであり、斯業界にとってはゴルファーの裾野拡大の観点より重要な課題である。ジュニアゴルファーの育成は業界団体が業界を挙げて取組み、市場活性化に向けた活動を連携する必要がある。当協会は同協議会の構成メンバーとしてジュニアゴルファーの育成に連携して活動する。

### 2. 他団体との協賛・後援事業

- (1) 一般社団法人日本ゴルフ用品協会に対し後援 : 第48回ジャパンゴルフフェア2014
- (2) 日本ゴルフサミット会議に対し協賛 : 2014年ゴルフ新年会
- (3) 他団体競技の後援(予定)

競技名	主催者
第36回 ALL KANSAI テレビ アマチュアゴルフ選手権	(株)サンテレビジョン
第6回ウッドフレンズレディース アマ・プロゴルフ選手権競技 女子アマチュアの部	森林公園ゴルフ場運営会社(株)
第31回・第32回アオノジュニアゴルフ大会	青野運動公苑アオノゴルフコース
第22回・第23回すきっぷ 21:アオノ親子ゴルフ大会	青野運動公苑アオノゴルフコース
日刊アマゴルフ2014 全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権東日本大会	日刊スポーツ新聞社東京本社
日刊アマゴルフ2014 全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権北海道大会 全日本レディースゴルフ選手権北海道大会	北海道日刊スポーツ新聞社
2014年近畿オープンゴルフ選手権	サンケイスポーツ

## ■その他の事業1 収益事業 ハンディキャップ普及振興事業

### I. ハンディキャップ普及振興事業

#### 1. 自分のゴルフ技量を正しく示すことはゴルファーの責任

ゴルフは年齢・性別・技量の異なる者同士でも対等に楽しめるスポーツであるが、それは公平な統一ハンディキャップ(JGA/USGAハンディキャップインデックス:国際ゴルフ・ルールに基づき公益財団法人日本ゴルフ協会が発給)が前提である。ゴルファーは自分のゴルフ技量を公式な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任があるが、JGA/USGAハンディキャップインデックスは日本で唯一の公認ハンディキャップであり、当協会はアマチュアゴルファーに対して、ゴルファーの証とも言えるJGA/USGAハンディキャップインデックスの普及を推進している。競技主催団体にとっては、公平な統一ハンディキャップの普及振興は、アンダーハンディ競技会の適正、公正な運営の前提条件である。

当協会のJGA/USGAハンディキャップインデックス取得者は約21,000名で、高額なゴルフ会員権の取得を必要とせず、誰でも低廉な登録料でPGS会員になることができ、手軽に取得できる点から多くのアマチュアゴルファーの支持を得ている。

平成26年度も引き続き、JGA/USGAハンディキャップインデックスの普及、HDCP取得者の拡大を推進する。

## 2.「USGAコースレーティングシステム」、「USGAハンディキャップシステム」の導入

公益財団法人日本ゴルフ協会（JGA）は、平成26年よりUSGAが開発・所有し、世界の約60カ国と地域で採用されている、「USGA コースレーティングシステム」（通称スロープシステム）、および「USGA ハンディキャップシステム」の導入を決定した。

USGA ハンディキャップシステムの導入に伴い、コースレーティングもこれまでのJGA方式からUSGA方式に変更となり、改めてコース査定を行い算出されたスロープレーティングを付与することになった。スロープレーティングの普及により、ゴルファーはこれまで以上に公平なハンディキャップによってゴルフを楽しむことが可能となり、ひいてはプレー回数やゴルフ人口の増加などゴルフの更なる普及に繋がることが期待される。

また、USGA ハンディキャップシステムでは、平成26年からハンディキャップ査定スコアカードが、現行の10枚から5枚に変更される。

平成26年度も当協会は、JGAの動きに連動して順次協会加盟会員コースのスロープレーティングの査定を進め、USGA ハンディキャップシステムの導入を推進する。

## 3.JGA/USGA ハンディキャップインデックス取得者の推移

単位:名

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
20,262	25,451	23,471	24,663	24,974
平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度計画	
23,371	20,137	19,525	21,427	

## 4.JGA/USGA ハンディキャップインデックスの導入状況

### 1. 平成18年4月現在(導入率74%)

	東	中部	西	合計
会員数	33	11	42	84
JGA採用	31	10	21	62

### 2. 平成26年3月現在(導入率98%)

	東	中部	西	北・青	合計
	32	11	34	4	81
	31	11	33	4	79

## II.JGA/USGA コースレート査定事業

公平な統一ハンディキャップである JGA/USGA ハンディキャップインデックスの普及のためには、その前提としてゴルフ場のコースレーティングが正確に査定されている必要がある。当協会はコースレート査定を管轄する公益財団法人日本ゴルフ協会（JGA）に対して、会員パブリックゴルフ場の依頼に基づき申請窓口として機能している。平成26年度は、次の3コースでコースレート査定を予定している。

東日本地区	西日本地区	中部日本地区
1.昭和の森ゴルフコース	1.姫路シーサイドゴルフコース 2.瀬板の森北九州ゴルフコース	なし

## ■その他の事業2. 助成金事業

本事業はゴルフの普及を図るために、従来ジュニアゴルファーの育成を目的に活動する業界2団体、当該団体の活動を通じて間接的に児童・青少年の健全な育成に資するために、助成金事業を実施してきた。

然しながら、当協会の競技参加者人数は平成19年度にピークアウト、以降残念ながら毎年競技参加者数は減少し続け、加えて平成23年の東日本大震災の影響から激減し、この結果収支状況が逼迫しており、残念ながら下記の様な実施状況となっている。

### 1.NPO法人日本ジュニアゴルファー育成協議会

平成23、24年度は収支悪化を要因として休止、平成25年度より収支は依然厳しいが、同協議会設立からの経緯を尊重し復活した。

### 2.一般社団法人日本高等学校ゴルフ連盟

平成23年度以降、残念ながら収支悪化を要因に休止を余儀なしとされている。

以上

## 事業計画書の附属明細書

### ■役員その他の法人等の業務執行理事との重要な兼職の状況

平成26年3月31日現在

区分	氏名	兼職先法人等	兼職の内容	関係
理事(代表理事)	三野 哲治	住友ゴム工業株式会社	会長	
理事	石井 信成	公益社団法人全日本ゴルフ練習場連盟	会長	
		株式会社那須野ヶ原カントリークラブ	代表取締役社長	
理事	三治 明	株式会社三治製作所	代表取締役会長	
		株式会社正眼寺カントリークラブ	代表取締役社長	
理事	西村 潔	株式会社京阪ゴルフ倶楽部	理事長	
理事	三浦 光男	読売ゴルフ株式会社	代表取締役社長	
理事	加藤 義孝	東名ゴルフ株式会社	代表取締役社長	
理事	六車洋二郎	株式会社コート・ペール徳島	代表取締役社長	
理事	森 章次	公益社団法人社納税協会	理事	
		株式会社アオノリゾート	代表取締役社長	
理事	伊藤 哲夫	伊藤公認会計士事務所	公認会計士	
監事	菅野 孝男	常和ゴルフマネジメント株式会社	代表取締役	
監事	大田 英二	株式会社チュウブ	代表取締役社長	
監事	豊原 正嗣	豊原会計事務所	公認会計士	

(注)当協会にとって兼職先法人等が重要な法人である、並びに当該役員が兼職先の法人等で重要な職務を担当している場合を記載している。

### ■その他の記載事項

#### 1.定款に定める事業内容について補足すべき重要な事項

定款第5条に「(その他の事業) (2)ゴルフ関係諸団体に対する助成金事業」を定め、従来、ジュニアゴルファーの育成を目的に活動するゴルフ界2団体[NPO法人日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)]、並びに「一般社団法人日本高等学校ゴルフ連盟」に対して、活動支援の観点からの助成金事業を行ってきた。然しながら、近年の競技参加者数減少による収支状況悪化から、NPO法人日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)に対しては、平成23年度、平成24年度は休止を余儀なしとされたが平成25年度より復活、一方、一般社団法人日本高等学校ゴルフ連盟に対して、平成23年度以降実休止を余儀なしとされている。

以上

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会  
会長(代表理事) 三野 哲治

